土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　市営万町住宅地質調査業務委託

事業名 または 工事名

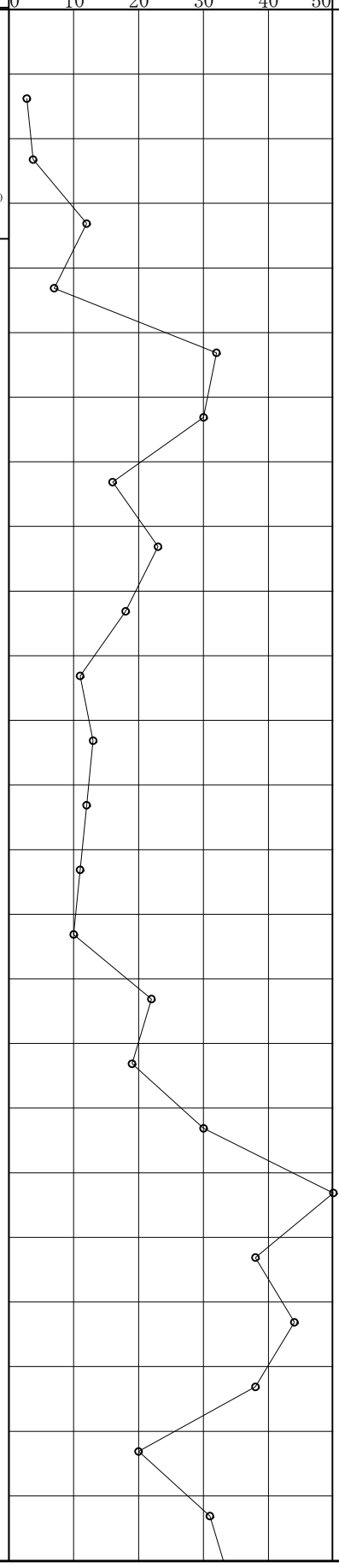
調査目的及び調査対象　建築 構造物基礎

ボーリング名	No.1	**調査位置**	秋田県能代市万町地内					**北緯**	40° 12′ 52.9″
発注機関	秋田県能代市			**調査期間**	2021年 12月 10日 ～ 2021年 12月 15日			**東経**	140° 01′ 50.3″
調査業者名	明治コンサルタント株式会社秋田支店 **電話** 018-865-3855	**主任技師**	三浦　英行 地質調査技士 登録番号:	**現場代理人**	大内　正人 地質調査技士 登録番号:	**コア鑑定者**	斉藤　工 地質調査技士 登録番号:	**ボーリング責任者**	宮田　勝 地質調査技士 登録番号:
孔口標高	T.P. 3.18m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 0°	**使用機種**	**試錐機**　東邦D1-C
総削孔長	37.44m							**エンジン**	ヤンマーNFD10　**ポンプ**　東邦BG-3B

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日
1	1.98	1.20		盛土		暗褐			細～中砂を主体とする盛土。木片を多く混入する。	水位無し
2 3	-0.22	3.40		砂		褐	rd1		細～中砂を主体とする砂。深度2.90m以深粗砂を少量混入する。	12/10 3.55
4 5 6 7 8	-5.32	8.50		砂礫		暗青灰～暗褐灰～暗青灰			径2～5mmの亜角礫を主体とする砂礫。最大径30mmの礫が点在。間隙は細～粗砂の粒径幅の広い砂が充填する。深度8.40m付近でシルトを薄く挟在する。	12/10
9 10	-7.07	10.25		砂		暗青灰～暗灰	rd3		深度9.60～9.90mで木片等の腐植物混入する。深度10.90～11.30mで粘土の薄層を挟む。	
11 12 13 14 15	-12.52	15.70		砂・シルト互層		暗灰			細～粗砂を主体とする砂と概ね均質なシルトが互層をなす。全体的に砂が優勢。深度11.00～13.00mで粗砂を少量混入する。	
16 17 18 19 20	-17.47	20.65		砂		暗灰	rd4		深度17.80mまで細～中砂を主体とする砂が分布し、粗砂を少量混入する。深度17.80～19.50mで細礫を混入する。	12/11
21 22 23 24				砂		暗灰	rd4		深度21.00mまで礫を多く混入する。深度22.30m付近でシルトを薄く挟在する。全体的に中～粗砂を主体とするが、深度24.00m以深細～粗砂の粒径幅の広い砂が主体となる。	

標準貫入試験

深度－N値図



N値	深度 (m)	100mごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
3	1.15	1 / 200	1	2 / 130	4 / 430		
4	1.58 / 2.15	1	2 / 150	1 / 70	4 / 320		
12	2.47 / 3.15	3	5 / 120	4 / 80	12 / 300		
7	3.45 / 4.15	1	3 / 120	3 / 80	7 / 300		
32	4.45 / 5.15	9	10	13	32 / 300		
30	5.45 / 6.15	7	10	13	30 / 300		
16	6.45 / 7.15	6	3	7	16 / 300		
23	7.45 / 8.15	8	8	7	23 / 300		
18	8.45 / 9.15	6	6	6	18 / 300		
11	9.45 / 10.15	3	4	4	11 / 300		
13	10.45 / 11.15	2	4	7	13 / 300		
12	11.45 / 12.15	3	4	5	12 / 300		
11	12.45 / 13.15	3	3	5	11 / 300		
10	13.45 / 14.15	3	3	4	10 / 300		
22	14.45 / 15.15	7	7	8	22 / 300		
19	15.45 / 16.15	6	6	7	19 / 300		
30	16.45 / 17.15	1	13	16	30 / 300		
50	17.45 / 18.15	16	16	18	50 / 300	300	
38	18.45 / 19.15	10	12	16	38 / 300		
44	19.45 / 20.15	13	14	17	44 / 300		
38	20.45 / 21.15	10	13	15	38 / 300		
20	21.45 / 22.15	6	7	7	20 / 300		
31	22.45 / 23.15	6	10	15	31 / 300		
	23.45						

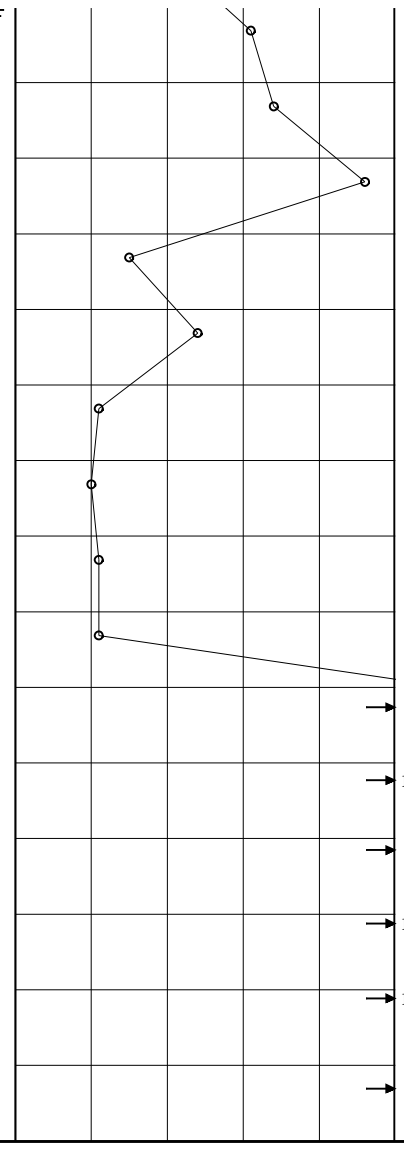
試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験　原位置試験

削孔月日　12/10　12/11

23							度22.30m付近でシルトを薄く挟在する。全体的に中～粗砂を主体とするが、深度24.00m以深細～粗砂の粒径幅の広い砂が主体となる。
24			砂	暗灰	rd4		
25	-22.72	25.90					
26	-23.17	26.35	粘土質シルト	暗灰		rc3	未炭化の植物片を混入する。
27	-24.52	27.70	砂	暗青灰	rd3		シルトを多く混入する砂。砂は細砂を主体とする。
28			シルト混じり粘土	暗灰～青灰		rc2	シルトを混入する粘土。やや粘性がある。黒色の腐植物片を少なく混入する。
29							
30							
31	-28.62	31.80					
32			砂礫	暗青灰～暗褐灰			径10mm未満の亜角礫を主体とし、最大径40mm程度の礫を含む砂礫。間隙は中～粗砂が充填する。
33							
34							
35							
36	-33.77	36.95					
37	-34.26	37.44	砂岩	暗青灰			固結度の低い細粒の砂岩。



31	23.15	6	10	15	31/300							
	23.45											
34	24.15	10	10	14	34/300							12/13
	24.45											
46	25.15	14	16	16	46/300							
	25.45											
15	26.15	4	5	6	15/300							
	26.45											
24	27.15	7	8	9	24/300							
	27.45											
11	28.15	4/120	3/80	4	11/300							
	28.45											
10	29.15	3/110	3/90	4	10/300							
	29.45											
11	30.15	4/110	3/90	4	11/300							
	30.45											
11	31.15	3	4/110	4/90	11/300							
	31.45											
75	32.15	26	24		50/200	200						12/14
	32.35											
115	33.15	40	10/30		50/130	130						
	33.28											
83	34.05	27	23/80		50/180	180						
	34.23											
125	35.05	30	20/20		50/120	120						
	35.17											
147	36.05	32	18/2		50/102	102						
	36.15											
52	37.15	12	16	22/90	50/290	290						12/15
	37.44											